

生態地理学上注目すべき長崎県の植物群落(2)

伊藤 秀三

Syuzo ITOW: Ecogeographically noteworthy plant communities in Nagasaki Prefecture, Japan (2)

前編(伊藤1997)に引き続き、長崎県の九州本島側の植物群落地についてまとめる。地点番号と図番号は前編から引き継いだ(図27)。末尾の日付は最後の調査日である。

北松浦地方

50) 国見山のアカガシ原生林(世知原町国見山脊梁平坦部)(図28)



図28 世知原町国見山脊梁平坦部のアカガシ自然林。林冠に凹凸のある写真中央

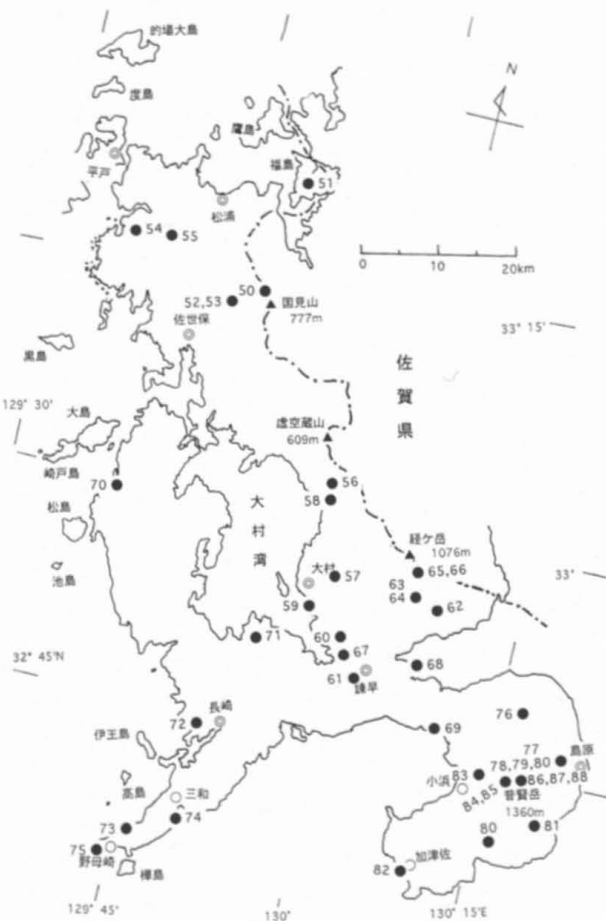


図27 長崎県九州本島部の概念図。各地点の番号は本文中の番号に対応する

本島部の450m以上の山地は、アカガシ林域である。そこはまた植林の適地でもあるので、自然林は広く伐採され植林地となっている。国見山の脊梁の平坦な尾根上には、小面積であるがアカガシの自然林が残存する。周辺には炭焼き窯の跡があるので、多分、過去には若干の伐採は行われているであろうが、林冠木の最大直径は70cm以上におよび、自然林の組成をそなえている典型的なアカガシ—ミヤマシキミ群集の残存林である。組成の詳細は長崎県教育委員会(1991b; p.86)を参照せよ。(1981/5/4, 1993/8/6)

51) 福島町今宮神社社叢(県指定天然記念物)(福島町里免)

林内および周辺は稀産種タイリンアオイの自生地(1983/8/18)

52) 世知原町大山祇神社社叢(県指定天然記念物)(世知原町開作免)

林内には稀産種ナガサキシダが自生する。

(1989/11/14)

53) 吉井町吉田大明神社叢 (県指定天然記念物) (吉井町上吉田) (1989/11/13)

54) 鹿町町船の村鎌倉神社 (町指定天然記念物)

バクチノキの多産が特徴。(1989/12/1)

上記の4つのスダジイ残存林は、かつて北松浦地方を覆っていた原植生の組成と構造を今に伝えている。それは遠い過去においては貴重な存在ではなかったが、現在ではそれぞれの地方の原植生を今に伝えるものとして貴重な存在である。

55) 御橋観音シダ植物群落 (国指定天然記念物) (吉井町直谷免)

下記のシダ類の記録がある。イワガネソウ、イワガネゼンマイ、カツモウイノデ、サイゴクホングウシダ、シロヤマシダ、シロヤマゼンマイ、スジヒトツバ、ツルホラゴケ、ハウライシダ、ミヤジマシダ等。要再調査。

東彼杵・大村地方

56) 出口山イチイガシ林 (東彼杵町倉谷国有林22林班へ外2小班)

イチイガシは西日本の丘陵地下部の水はけのよい立地を適地とする。本県では、残存単木は長崎〜諫早〜大村〜多良岳周辺に多く見られるので、かつては広く分布していたと考えられる。しかし残存林は極めて少なく、長崎県では大村市狸の尾と出口山のみである。組成は次の通り。海拔360m, 方位SW70, 傾斜5度。

[**高木層**: 30m, 40%。胸高直径50~80cm] ウラジロガシ2.1, (以下1.1) イチイガシ, コジイ, アラカシ, ツクバネガシ。

[**亜高木層**: 10m, 20%] シイモチ1.1, サカキ1.1, クロバイ+, モチノキ+。

[**低木層**: 1m, 60%] ウラジロガシ2.2, シロバイ2.2, クロバイ1.2, イズセンリョウ1.2, ミミズバイ1.1, オオバジュズネノキ1.1, (以下+) サ

カキ, モチノキ, ヤブツバキ, イヌガシ, ヤブニッケイ, ハクサンボク, シイモチ, ネズミモチ, ハイノキ, モッコク, カクレミノ, シリブカガシ, ツクバネガシ, ヒメユズリハ, イチイガシ, トキワガキ, カンザブrouノキ, リンボク, タブノキ, アラカシ, ネズミモチ。

[**草本層**: 0.8m, 30%] ウラジロガシ1.1, クロバイ1.1, オオカグマ+.2, (以下+) ベニシダ, キジノオシダ, テイカカズラ, ヤブコウジ, シロバイ, シキミ, センリョウ, マンリョウ, ナガバジャノヒゲ。

[**着生植物**] マメズタ。

同じ林分内で記録した大木は次の通り。最大胸高直径(cm): アカマツ90, スダジイ60, コジイ70, アカガシ60, アラカシ60, イチイガシ80, ウラジロガシ70, ツクバネガシ60。

同じく林分内で記録した種は次の通り (階層別50音順): [**高木層**] アカガシ, アカマツ, スダジイ。 [**亜高木層**] イスノキ, カナクギノキ, クマノミズキ, サザンカ, ヤマハゼ。 [**低木層**] アオキ, アオハダ, イヌガヤ, イヌツゲ, イヌビワ, イヌマキ, ウリハダカエデ, エゴノキ, オガタマノキ, カゴノキ, キダチニンドウ, クロガネモチ, クロキ, コガクウツギ, コバノガマズミ, ゴンズイ, シャシャンボ, ジュズネノキ, シロダモ, タラノキ, チャノキ, ツルグミ, ナガバジュズネノキ, ナワシログミ, ハマクサギ, ハリギリ, ヒサカキ, ホソバタブ, ボロボロノキ, ミヤマシキミ, ヤブムラサキ, ヤマウルシ。 [**草本層**] アリドウシ, イノデ, ウラジロ, エビネ, オオキジノオ, キズタ, キッコウハグマ, クマワラビ, コショウノキ, シュンラン, チヂミザサ, ツルリンドウ, ツワブキ, トウゲシバ, ナガバモミジイチゴ, ナキリスゲ, ナツフジ, フモトシダ, フユイチゴ, ホウライカズラ, ホソバカナワラビ, マルバベニシダ, ムベ, ヤマイタチシダ, *Arisaema* sp., *Asarum* sp。 [**つる植物**] アケビ, イワガラミ, キズタ, ノササゲ,



図29 大村市狸の尾のイチイガシ自然林

ビナンカズラ, ミツバアケビ, ヤマノイモ. [着生植物] ヒトツバ. (調査: 伊藤秀三・川里弘孝 1980/4/26; 伊藤1986/11/2)

57) 大村市イチイガシ天然林 (国指定天然記念物) (大村市雄ヶ原町) (図29)

狸の尾水源池の上方に広がる森林である。面積は約20ha。尾根筋にはコジイーミミズバイ群集, 低平な谷部にはイチイガシールリミノキ群集が自然度高く残存する。ルリミノキの多産は特記すべきことである。組成の詳細は伊藤(1980c)を参照せよ。なおイチイガシ林の国の天然記念物指定地は大分県宇佐市にあり, 単木の指定は熊本県南関町にある。(1997/11/9)

58) 竜頭泉溪谷のスダジイ林 (東彼杵郡東彼杵町)

スダジイーミミズバイ群集の残存林。(1980/8/9)

59) 大村市玖島崎樹叢 (県指定天然記念物) (大村市玖島崎)

タブノキームサシアブミ群集およびスダジイークチナシ群落を含む。局所的にヒゼンマユミが生育する。(1992/8/21)

60) 富川溪谷のスダジイ林 (諫早市富川町)

61) 諫早市城山暖地性樹叢 (国指定天然記念物) (諫早市原口名城山)

スダジイーミミズバイ群集。ミサオノキの県下唯一の生育とヒゼンマユミの多量生育が特色。なおヒゼンマユミの県下における生育は次の箇

所。対馬/峰町木坂神社, 平戸市度島飯盛山, 大村市玖島崎, 高来町轟峡, 森山町唐比。

62) 轟峡のスダジイ林 (北高来郡高来町)

スダジイーイスノキ群落の残存林。(1988/10/7)

以上5カ所の残存照葉樹林は, それぞれの地方の原植生を知る手がかりを与えてくれる。

63) 五ヶ原岳ツクシシヤクナゲ群落 (県指定天然記念物) (大村市五ヶ原岳) (1997/8/30)

64) 多良岳ツクシシヤクナゲ群落 (国指定天然記念物) (北高来郡高来町小松公園)

上記の二カ所ではツクシシヤクナゲが多産する。後者の生育地はツガーツクシシヤクナゲ群落で, 海拔620m, やせ尾根上での組成は下記の通り。

[高木層: 10m, 40%] ツガ2.1, (以下1.1) アカマツ, クロバイ, アカガシ, イスノキ, ネジキ, スダジイ+, タカノツメ+。[亜高木層: 6m, 40%] ツクシシヤクナゲ1.2, ネジキ+, ヒサカキ+, ヤマウルシ+。[低木層: 1.8m, 10%] ツクシシヤクナゲ1.1, ネジキ+.2, (以下+) ヒサカキ, ソヨゴ, シキミ, サザンカ, ヤブニッケイ, リョウブ。[草本層: 0.5m, 20%] ソヨゴ2.2, ヤブコウジ1.2, (以下+.2) ヤマツツジ, ヤマイバラ, イヌツゲ, (以下+) ユズリハ, ハイノキ, ヒサカキ, コハウチワカエデ, ヤブツバキ, コバノトネリコ, ヤマウルシ, サルトリイバラ。(1980/4/29, 1994/4/29) なお, ツクシシヤクナゲは西彼杵半島の県民の森にも少量自生する。五島・中通島の山地にあったと伝えられる自生地には, いまは自生しない。

65) 多良岳のケヤキ群落 (北高来郡高来町小松公園～金泉寺間の谷筋)

ケヤキは有用材であるために, 県下ではケヤキ自然林の残存は極めて少ない。ここにあげるのは, ケヤキ大木(胸高直径40~60cm)をふくむ数少ない残存自然林である。

海拔690m。方位 NE70, 傾斜30度。

[高木層：18m, 40%] ケヤキ3.4 (最大胸高直径60cm). [亜高木層：10m, 70%] チドリノキ2.1, (以下1.1) ケヤキ, ミズキ, ホソバタブ, ヤブツバキ. [低木層：1.8m, 20%] (すべて+) モミ, シキミ, カヤ, イヌガヤ, ヤブニッケイ, ホソバタブ, ネズミモチ, ミヤマシキミ, ヤブデマリ, アオハダ, ウリノキ, ハナイカダ, チドリノキ, オトコヨウゾメ.

[草本層：0.7m, 30%] ゴトウズル1.2, (以下+.2) クマワラビ, ジュウモンジシダ, イノデ, キズタ, オウギカズラ, (以下+) イワガラミ, ウバユリ, ナツズタ, テイカカズラ, フユノハナワラビ, キバナアキギリ, ケヤキ, ムクノキ, ミズヒキ, ミヤマシキミ, ツクシヤマアザミ, ヒメウワバミソウ, *Clematis* sp., *Scutellaria* sp.. [着生植物] マメズタ.

現地調査は1980/4/29. 現状の再調査が必要である.

66) 多良岳～経ヶ岳の落葉樹林 (北高来郡高来町多良岳～大村市経ヶ岳一帯) (図30)

多良岳の山頂部一帯に発達する落葉樹林は, 日本列島最西端の落葉樹林として注目されなければならない. ここを分布の西限地とする植物 (例: ブナ, マンサク, ツガ), 隔離分布種 (例: オオキツネノカミソリ, ヤマシャクヤク) もある. 詳しい群落調査が必要. (1989/11/3, 1993/7/24)

67) 諫早ハンノキ群落 (諫早市真崎町) (図31)



図30 多良岳山頂部の落葉樹林



図31 諫早市真崎のハンノキ群落

ハンノキは湿性立地に生育する落葉木本である. 本県では, 佐世保市三川内, 波佐見町での生育を確認しているが, 諫早市真崎町の自生地がもっとも自然度が高い. ただし最大樹高は6m程度で大木はない. (1989/5/13)

68) 諫早湾のシチメンソウ群落 (とくに諫早市赤碓地崎)

有明海の奥部の泥濘地の幾箇所かに自生する. 赤碓地崎の1997年までの最大自生地は, 諫早湾干拓により消滅する運命にある. 本種は一年生植物で, 立地条件がととのえば爆発的に増える. 諫早湾の締め切り堤防の先に, さし当たりの生育適地が造成されることを期待し, 将来は適地が一層広がることを期待する. (1996/10/19, 1997/11/19)

69) 唐比海岸礫堤上のホルトノキ群落 (北高来郡森山町唐比)

唐比の集落から唐比温泉の間には直径30～100cmの岩礫が波浪に打ち上げられた礫堤がある. その上には, ホルトノキやアラカシ, ムクノキが優占する高木群落がよく残されている. 残念なことには, 礫堤の海側にはコンクリートの護岸が作られ, それと礫堤の間に土砂が入れられてクロマツが植栽されている. しかし

礫堤とその上の残存林は、他所では例を見ない。種類組成の詳細は、都地ほか(1981)、長崎県教育委員会(1991b, p.55)を見よ。(1990/1/9)

西彼杵半島・長崎市・野母半島

70) 西彼町の岩角地群落(西彼町多比良〜七釜方面)(図32)

西彼町には石灰質砂岩の岩角地が各所にある。そこには好石灰性(例:ナナツガママンネングサ)や岩崖生(例:ヒレフリカラムツ)の植物が独特な群落を形成している。中西(1997)によると、おもな群落はイワガサ群落、キキョウランーイワカンスゲ群落、ヒレフリカラムツ群落、ナナツガママンネングサ群落、生育する主

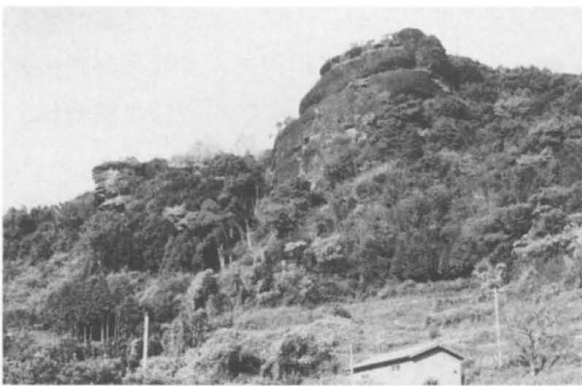


図32 西彼町の岩山の1つ



図33 長崎市小江岩

な植物を列記すると次の通り(50音順)。イワガサ、イワギボウシ、キハギ、キバナセッコク、シロバナハンショウズル、セッコク、タキユリ、タチデンド、ダンギク、ナナツガママンネングサ、ニラバラン、ヒレフリカラムツなど。(1994/4/10)

71) 長与町の稗の岳(西彼杵郡長与町)(1988/4/30)

72) 長崎市小江の岩山(長崎市小江)(図33)

この地方の凝灰角礫岩の岩角地には、ダンギクーイワヒバ群集、キハギーワガサ群落が多く発達している。そのうち上記の2カ所では群落は自然状態によく保たれている。他にも多くの産地がある。小江の岩山にはムカデラン群集もある。群落の種類組成については、千々布1980、伊藤・川里1988を参照。(1982/5)

73) クヌギ群落(図34)

西彼杵半島から長崎市を経て野母半島にいたる稜線には、凝灰角礫岩の尾根の上の浅土地にクヌギ群落の発達が見られる(一部には植栽もあるので要注意)。尾根の上のクヌギ群落として他所に例を見ない(伊藤・川里1987)。注目すべき主な箇所としては、長崎市手熊、岩屋山、野母崎町以下宿。(以下宿:1998/1/4)

74) 三和町川原大池樹林(県指定天然記念物)(西彼杵郡三和町宮崎)

天然記念物指定地の注目すべき植物は(木本)ハマナツメ、(草本)ヒトモトススキ、ヒメガ



図34 長崎市の尾根筋浅土地に見られるクヌギ群落

マ、アンペライ、テツホシダである。なおハマナツメは長崎市牧島曲り崎に見つかり（中西1996b），そこが県本土での北限産地となった。（1983/10/15）

75) 野母崎町弁天山樹叢（県指定天然記念物）

長崎県南部沿海地の照葉樹林の原形をよく残している。（1987/5/2）

島原半島

76) 国見町山地中腹のコジイ自然林（国見町神代）（図35、36）

島原半島では山地中腹の残存照葉樹林はほとんどない。ここにあげる森林が唯一の自然度の高い残存林である。この林地は、鍋島林業の所



図35 国見町神代の山地に残るコジイ自然林の林縁



図36 同上の林内景観

有でよく保存されている。残存林は2カ所があり，上部の残存林は海拔300～330mの傾斜地に，下方の残存林は海拔200mの平坦地にある。自然度は上部森林が高い。組成の1例を下にあげる。

海拔330m，方位 NE40，傾斜23度。

〔高木層：28m，60%〕ウラジロガシ3.3，コジイ1.1，イヌシデ1.1，

〔亜高木層：13m，30%〕サカキ1.1，ヤブツバキ1.1。〔低木層：2.5m，60%〕アオキ2.2，ウ

ラジロガシ1.1，シロバイ1.1，イヌガシ1.1，（以下+）ヤブニッケイ，リンボク，サカキ，ヒサ

カキ，ネズミモチ，ハマクサギ，ホソバタブ，ナナメノキ，カジノキ。〔草本層：0.8m，40%〕

（以下+.2）ベニシダ，イノデ，サンショウソウ，キジノオシダ，（以下+）ナガバジャノヒ

ゲ，キダチニンドウ，ヤブミョウガ，ミゾシダ，フユイチゴ，ナツズタ，ヤブムラサキ，アオキ，

イヌガシ，〔つる植物〕キズタ。〔着生植物〕マメズタ。

海拔200m地の照葉樹林では，一部に択伐の形跡があり，またクスノキの植栽木が混じる箇所もある。やや自然度は低い，自然林の種組成を保っている。（1996/10/19）

77) 島原市本光寺樹林（島原市）

島原の市域に接して寺院の裏手に残る樹林地である。樹林地内には所々に墓地があるので，全体の自然度は高くないが，全体として島原半島東側の低海拔地の照葉樹林（スダジイ・ミミズバイ群集）の植物をよく保存している。（1995/11/14）

78) 島原市千本木のケヤキ群落

島原市千本木の谷は，雲仙普賢岳の噴火にとまなう火砕流で大きな被害を受けたが，眉山北側の山麓に発達していたケヤキ・ホソバタブ群集は被害を免れていた。有用材のためにケヤキは広く伐採されて，残存林は極めて少ない。離島では対馬の大星山の谷部，本土側では多良岳（前出）と千本木の残存林のみとなった。組成の



図37 島原市の新焼溶岩流の末端部

詳細は長崎県教育委員会(1991b, p.58)を参照せよ。(1997/1/26)

79) 新焼溶岩流(島原市)(図37)

1792年の雲仙噴火で流下した溶岩流である。その上に発達しているアカマツ群落は、乾性の一次遷移の見本的な群落である。(1997/1/26)

80) 島原半島東部のシマバライチゴ群落(県天然記念物指定地は島原市南千本木。南高来郡西有家町戸の隅滝ほかにもある)

本種の日本における分布は島原半島に集中する。生育立地は、林縁の半陽性のマント群落である。果実と種子の形態からみて鳥散布と見なされる。分布と生態については山田(1992)を参照せよ。新産地の記録(木村1994)もあり、今後の分布拡大には要注目。(戸の隅滝1989/12/17; 南千本木1997/1/26)

81) 深江町諏訪神社の社叢(県指定天然記念物)(南高来郡深江町諏訪神社)

島原半島南部の照葉樹林の組成をよく保存している。

82) 加津佐町岩戸山樹叢(南高来郡加津佐町岩戸山)(国指定天然記念物)

神社背後の照葉樹林と山上の岩角地群落からなる。前者はタブノキ・ムサシアブミ群落で、島原半島南部の暖地の自然林の種組成をよく残している。岩角地の群落の主要植物は、イワシデ、キハギ、イワガサ、マルバウツギである。群落と種組成は中村(1989)を参照せよ。(1991/11/23)

83) 小浜町のクスノキ巨木林(南高来郡小浜町山領奥)

植栽起源とみられるクスノキは、幹径1m前後に達していて高木層を形成する。ほかにタブノキの巨木もある。要再調査。(1985/6, 1990/1/9)

84) 地獄地帯シロドウダン群落(国指定天然記念物)(南高来郡小浜町雲仙)

火山ガスの影響をうける立地では、ガスに耐性のない植物の生育は制限され、ツツジ科植物が繁茂する。その代表例がシロドウダンである。群落の種組成は伊藤(1977c)を参照せよ。(1992/11/11)

85) 原生沼沼野植物群落(国指定天然記念物)(南高来郡小浜町雲仙)(図38)

3種のミズゴケ(オオミズゴケ、ハリミズゴケ、ヒメミズゴケ)の生育する日本最西端の湿原である。主な群落は、シカクイ群落、ハリミズゴケ群落、オオミズゴケ群落、ウンゼンザサ群落。泥炭の深さは4m、その古さは6000年におよぶ。その花粉分析により、湿原と周辺植生の



図38 小浜町雲仙にある原生沼の俯瞰写真

変遷が明らかにされている。詳しくは伊藤(1980a)を参照せよ。(1992/11/11)

86) 池の原ミヤマキリシマ群落 (国指定天然記念物) (南高来郡小浜町雲仙)

池の原は、かつては馬の放牧場であった。馬が選択的に喰い残したミヤマキリシマが、現在の群生の起源で、動物と植物の生態関係をよく証査する群落である。(1992/11/11)

87) 野岳イヌツゲ群落 (国指定天然記念物) (南高来郡小浜町雲仙)

イヌツゲの巨木群落の指定である。最大個体では幹囲60cmを越える。巨大化の原因は不明。(1992/11/11)

88) 普賢岳紅葉樹林 (国指定天然記念物) (南高来郡小浜町雲仙)

1990～1995年に続いた噴火により、大きな変化を遂げている。噴火以前に存在した主な木本群落は次の通り。モミーコガクウツギ群集、コハウチワカエデーケクロモジ群落、ヤマグルマーヒカゲツツジ群落、ニシキウツギ群落、ブナ群落。いずれも噴火の影響を受けている。今後の植生回復の過程は要調査。(1992/11/11)

【付1】水湿地植物群落

県内の水湿地植物群落については、私は多くの調査経験をもたないので、とくに本稿のなかに取り上げることが出来なかった。水湿地はかつては水田として開発され、失われて行った箇所が多い。このため水湿地生の植物の中から多くの絶滅危惧種や危急種が指摘されるに至っている(環境庁1997)。しかし近來の稲作の減反政策により水田は各所で耕作が中止され、その一部は再び水湿地となっている。そこには、多分、水鳥の飛来によって運び込まれた種子に由来すると考えられる水湿地生の植物が、再び現れて来た。こうして、水湿地特有の群落が自然的な過程で復帰してきている。県内の水湿地群落に関しては、詳細な調査が必要である。これまでに気付いた自然な水湿地群落は対馬・上県町田

の浜である。ほかに休耕田に生じた水湿地群落は各所にあるであろう。これらを含めた調査が必要である。

【付2】特定種

本稿では、特定種の自生地については記載していない。次の種はその例である。カミガモソウ、ハカマカズラ、センダイソウ、キイレツチトリモチ、カネコシダ。これらの県内分布も生態地理学上は重要であるが、稀産種の分布に注目する場合は、中西(1997b)を参照されたい。

文 献

- 千々布義朗 1980. 長崎市北西部の岩崖地植生. 長崎県生物学会誌19: 7-11.
- 千々布義朗 1989. 男女群島中の島(寄島)のケウバメガシ. 長崎県生物学会誌 35: 49.
- 本田正次・吉川需・品田穰(編)1966. (文化庁文化財保護部監修) 天然記念物事典. 第一法規出版.
- 伊藤秀三. 1974. 九州西部森林植生の植物社会学的研究 II. アカガシおよびモミ自然林について. 長崎大学教養部紀要 自然科学 15: 59-74.
- 伊藤秀三. 1977a. 九州西部森林植生の植物社会学的研究 V. 壱岐以南のシイ・タブ自然林について. 長崎大学教養部紀要 自然科学 17: 13-27.
- 伊藤秀三. 1977b. 九州西部森林植生の植物社会学的研究 VI. 対馬のシイ自然林について. ヒコピア 8 (1-2): 169-179.
- 伊藤秀三. 1977c. 長崎県の植生. 長崎県, 長崎.
- 伊藤秀三(編)1980a. 雲仙・原生沼の研究. 70頁. 長崎県環境部.
- 伊藤秀三 1980b. 植物群落の重要度評価基準を考える—西九州を例として. (環境庁編) 自然保護状留意すべき植物群落の評価に関する研究, 1-11. 環境庁.

- 伊藤秀三. 1980c. 大村市狸ノ尾イチイガシおよびコジイ原生林の植生学的研究. 大村市の狸ノ尾イチイガシ原生林(天然記念物緊急調査報告書), 1-21.
- 伊藤秀三 1992. 平戸の岩角地植生. (伊藤秀三編)平戸の植物と植生 55-60. 平戸市文化協会.
- 伊藤秀三 1996a. 地域ごとにみた植物群落の現状:九州.(わが国における保護上重要な植物種および植物群落研究会植物群落分科会編)植物群落レッドデータ・ブック. 90-95. 日本自然保護協会.
- 伊藤秀三 1996b. 生月町の植生. (伊藤秀三編)生月町の自然—地形・地質, 植生・植物相. 41-100.
- 伊藤秀三 1997. 生態地理学上注目すべき長崎県の植物群落. 長崎県生物学会誌48:1-14.
- 伊藤秀三・神野展光・川里弘孝・中西こずえ 1992. 対馬・龍良山の照葉樹林の研究 I. 傾度分析, 種変化, 率種多様性. 長崎大学教養部紀要(自然科学) 33(1):7-48.
- 伊藤秀三・川里弘孝. 1987. 西九州のクヌギ林について. 中西 哲博士追悼植物生態・分類論文集, 205-213.
- 伊藤秀三・川里弘孝 1988. 西九州におけるダンギク(クマツヅラ科)の分布と生態. ヒコビア 10:135-143.
- 伊藤秀三・川里弘孝 1992. 平戸の森林植生. (伊藤秀三編)平戸の植物と植生 17-38. 平戸市文化協会.
- 伊藤秀三・中西弘樹. 1984. 男女群島の植生およびフロラの追補. 植物地理・分類研究 32(1):42-51.
- 伊藤秀三・中西弘樹. 1987. 対馬の自然植生. 対馬の自然, 21-62. 長崎県.
- 伊藤秀三・中西弘樹・川里弘孝・千々布義朗. 1986. 対馬・黒島の植生. 長崎大学教養部紀要(自然科学) 26(2):11-26.
- 伊藤秀三・中西弘樹・川里弘孝 1993. 対馬・龍良山の照葉樹林の研究Ⅲ. 森林群落および岩角地群落の植物社会学的研究. 長崎大学教養部紀要(自然科学) 33(2):111-121.
- 伊藤秀三・金 文洪・川里弘孝・中西弘樹 1993. 済州島と対馬の溪谷川岸におけるチョウセンヤマツツジ群落. 長崎大学教養部紀要(自然科学) 34(1):37-44.
- 伊藤秀三・真辺静男 1992. 平戸の植物天然記念物. (伊藤秀三編)平戸の植物と植生 71-89. 平戸市文化協会.
- 環境庁 1988. 第3回自然環境保全基礎調査—特定植物群落調査報告書—追加調査・追跡調査.
- 川里弘孝・千々布義朗 1989. 美良島の植生. 長崎県生物学会誌 35:19-25.
- 木村キワ 1994. シマバライチゴ国見の山中で発見. 長崎県生物学会誌44:42.
- 金文洪・伊藤秀三 1994. 済州島漢拏山と対馬山地のチョウセンヤマツツジ群落. 長崎大学教養部紀要(自然科学) 34(2):111-120.
- 長崎県教育委員会1991a. 対馬天然記念物緊急調査報告書.
- 長崎県教育委員会1991b. 長崎県天然記念物実態調査報告書—対馬を除く—.
- 長崎県教育委員会1995. 長崎県の文化財. 442頁.
- 中村又市 1989. 岩戸山の植物. 40頁. 加津佐町教育委員会.
- 中西弘樹 1986. 九州におけるハマニンニク群落の分布と生態. ヒコビア 9:451-456.
- 中西弘樹 1993. 植物(伊藤秀三・松岡数充編)長崎県の無人島—その自然と生物. 545-549. 長崎県.
- 中西弘樹 1996a. 生月町の植物相. (伊藤秀三編)生月町の自然—地形・地質, 植生・植物相—101-139.
- 中西弘樹 1996b. ハマナツメ群落の新産地:

- 長崎県牧島。長崎県生物学会誌47：59-61。
- 中西弘樹 1997a. 長崎県石灰質砂岩地帯の植生と植物相。植生学会第2回大会講演要旨47。
- 中西弘樹 1997b. 長崎県レッド・データ・プランツ目録。長崎県生物学会誌48：15-24。
- 外山三郎1980. 長崎県植物誌。321頁。長崎県生物学会，長崎。
- 外山三郎1985. 長崎県の天然記念物。171頁。長崎県理科教育協会。
- 外山三郎・堀川芳雄・吉岡邦二・伊藤秀三。1968. 男女群島の植生。長崎県文化財調査報告書 第六集：34-57。
- 都地啓介・花岡哲・中村隆一・川里弘孝 1981. 唐比の海岸林。長崎県生物学会誌21：19-22。
- 山田スミコ 1992. シマバライチゴの分布と生態。長崎県生物学会誌41：5-20。
- 我が国における保護状重要な植物種および植物群落の研究委員会植物種分科会（編）1989. 我が国における保護状重要な植物種の現状。320pp. 自然保護協会，東京。
- （いとう・しゅうぞう；〒852-8144 長崎市女の都2-34-12）